

1970(昭和45)年、交通事故による犠牲者は全国で1万6千人を超え、「交通戦争」と呼ばれました。京葉工業地帯へ向かう幹線を抱える東京・江戸川区内では交通量が急増し、事故が多発、中でも子どもの犠牲者が35%を占めました。そんな中、地元の警視庁小松川署と地域住民が一体となって、同区内の小学生8百人によって同年11月に結成されたのが、全国初の交通少年団「小松

全国初の交通少年団

川交通少年団」です。

交通少年団は次々と誕生し、ピーク時には97団、約4400人の団員数を誇り、連合体としての「東京交通少年団」が結成されました。全国的にも広がりを見せています。

団員は交通安全パレードへの参加などの啓発活動、老人ホーム訪問や公共施設の清掃などの奉仕活動、キャンプなどを通じて、見聞を広めています。

交通安全10メモ